



どんぐりと山猫
宮澤賢治の
ようこそ

作品 アピール

山奥の草地の話。一郎に、あ来た大喜びです。その馬車別当と話しているたがったことと思つたのは、人
るおかしな手紙がきます。手して次の日、一郎は山と、そこに山猫があらわ間け動物にたよつていて、動
紙の内容は明日さいはんを行へ向かいました。一郎は山と、そこに山猫があらわ間け動物にたよつていて、動
うからきてくれ山猫よりたは山猫の場所が分からなくすると、待つていたると言うことを伝えたか
た。一郎は手紙が来たことになつたので、最初にさい判が始まりました。と、思ひます。理由は、字文の
大喜び。次の日一郎は山に向栗の木に山猫がここをそのさい判の内容は、金多し料理店でも、最後たべら
かい、くりや滝やきのこやり通らなかつたがいと聞色のどんぐりたちが、えれそうにうつた時にも、木か
すに、山猫のいる所を教えつきました。栗の木は東らしいものをもめるため、助けつ、このどんぐりと山猫
もらつたが、みんなの意見はの方へい、たと答えまに言いあらそいをしてい、では、山猫がとつても、こま
バラバラでも、一郎はどた。一郎はほくが行くる。それからささくまで、いける時人間にたよつて、か
んとん進んでいった。とうと、方だと思つて、進みまろさくまで、もう、日目に、いける時人間にたよつて、か
う着いたそでまつていたさした。またすこし行くもなるのにまた決めてい、です。あと、一郎が、山猫の
いはんが始まつた。そのさいと、滝がありましたかかないなにか決めるさいか所に行くとき、こりすにま
はんの内容とは？ちよつと笑う、滝にも、山猫がこ法はないかということだ、たりしていたからです。だか
えるこの話自分に自信がないことを通らなかつたが、い、た一郎は、笑つてまたたぶん宮澤賢治せんが伝え
人におすすめです。と、一郎が言うのと西の方ったくはんたりのことをたが、たのは、こらいつた
主な登場人物しよかい、行、た一郎はおかしいなと思は、い、た一郎は、笑つてまたたぶん宮澤賢治せんが伝え

山猫
一郎は手紙を書いた人

さい判をすくあわ
郎です

あらすじ
ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え

ある土曜日の夕方お
かしたはかきが、一郎
のうちに来ました。そ
の手紙は、山猫から
一郎は山猫から手紙が
別当にあらわし、一郎
この作品で宮澤賢治が伝え



発行日 12月12日

感想
筆者が伝えようとするもの、
を讀者側が読みとる事は、
とても難しいと感じています。

しかし、興味を引かれ物語の
ようになり、